

6月22日（金）18時～（18：30分開演 20：00終了予定）

仮題：東南アジアの後発発展途上国「カンボジア」の魅力について

講師：大谷賢二様

\* 一般財団法人 カンボジア地雷撤去キャンペーン 理事長

\* NPO 法人 福岡歴史研究会 理事長

\* アジア太平洋子ども会議 in 福岡のイベントで「日本イベント大賞奨励賞」受賞

#### <カンボジアの経済状況>

東南アジアの後発発展途上国カンボジアで、中小を中心とした日本企業の進出ラッシュが起きている。海外の主力生産拠点の中国で続く賃金上昇や人手不足が、リスク回避のための移転先だった周辺国のタイやベトナムでも顕在化。より安い労働力を求める企業側を引き付けている形だが、カンボジアも速いペースで経済成長を遂げており、日本企業のシフト先を求める“漂流”は終わりそうもない。

カンボジアの法定最低賃金は月額61ドル（約4700円）と上海の約3割。途上国向け特惠関税も利用できる。内戦で荒廃した国として取り残されてきたが故の投資環境が魅力になっている。

#### <プロフィール>

1951年福岡市生まれ。福岡県立福岡高校、九州大学法学部卒。在学中よりベトナム反戦・日中友好運動に取り組む。日中国交回復、平和友好条約締結の運動のなかで日中友好学生訪中副団長として訪中。以降、この約35年の間に旧ソ連、ヨーロッパ、中近東、アジア、アフリカ、南北アメリカなど約90ヶ国を訪問、自分自身の目で各国の現実を見つめてきた。カンボジアを訪れた際、多くの地雷被害者に出会い、地雷問題の深刻さに直面し、帰国後自らカンボジア地雷撤去キャンペーン（CMC）を設立。2011年4月、更なる支援の継続と基盤強化を図るため一般財団法人化し、（財）カンボジア地雷撤去キャンペーンを設立。現在、理事長として、世界の地雷廃絶運動を推進。写真展や講演会・チャリティー活動などを通して、国内での支援を募り、カンボジア現地の地雷撤去活動や地雷被害者救済、地雷原での学校建設及び運営などを実践している。一方、本業のイベント業を活かし日本初のパラグライダーのインストラクターとしてアジア大会、日本選手権などを企画・運営、また青年会議所メンバーとして「アジア太平洋子ども会議イン福岡」の第1回目からの企画に参画、日本イベント大賞奨励賞を受賞するなどの実績も持つ。これらを通して、アジア各国との交流を進めてきた。また、NPO法人福岡歴史研究会の理事長として地元福岡の歴史の掘り起こしにも取り組んでいる。